

令和 7 年度東御市総合交流促進施設（梅野記念絵画館・ふれあい館）運営委員会会議次第

日時：令和 7 年 11 月 21 日（金）午後 13：30～

場所：東御市役所第二委員会室

1 開会

2 委嘱書交付

3 市長挨拶

4 運営委員会の役割について

5 役員の選任

会長_____

副会長_____副会長_____

6 諮問

- ・「令和 7 年度寄贈作品（案）」について
- ・「令和 8 年度事業計画（案）」について

7 報告事項

- (1) 令和 6 年度事業実績について 資料 1 (P.1～P.4)
- (2) 令和 7 年度事業取組状況について 資料 2 (P.5～P.8)
- (3) 梅野記念絵画館運営課題について 資料 3 (P.9～P.14)

8 審議事項

- (1) 「令和 7 年度取得作品（案）」について 資料 4 (P.15～P.19)
- (2) 「令和 8 年度事業計画（案）」について 資料 5 (P.20～P.23)

9 答申

10 閉会

「入館者数・入館料実績」

ア 入館者数・入館料

R6	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数 (人)		302	355	353	423	3,525	3,410	3,530	147	241	283	532	13,101
入館料 (千円)		76	93	97	87	1,086	1,129	1,245	29	34	57	55	3,988

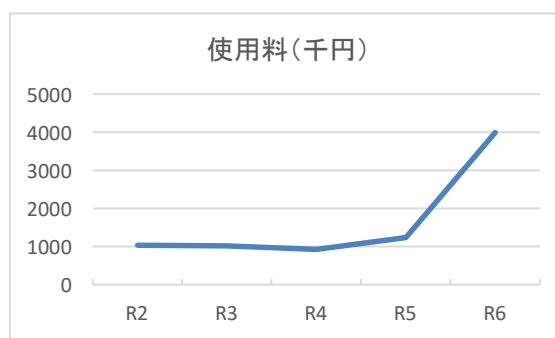
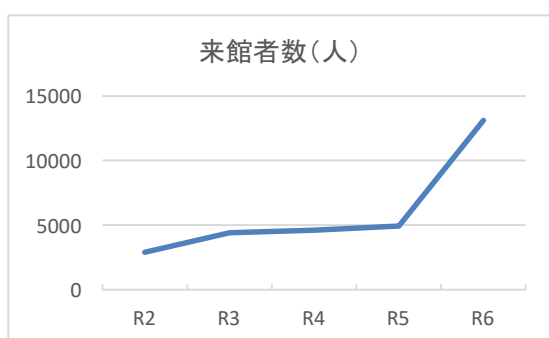
※入館者数は鑑賞目的にて来館した人の数を集計

イ 過去5年間の推移

区 分	R2	R3	R4	R5	R6	前年比
開館日数 (日)	221	209	242	251	226	90%
来館者数 (人)	2,913	4,396	4,607	4,929	13,101	266%
内訳： 一般	1,414	1,524	1,404	2,166	9,312	430%
小中学生	44	343	377	370	635	172%
割引	171	97	141	237	596	251%
会員	467	655	561	394	311	79%
招待減免	313	648	544	349	556	159%
喫茶	251	91	294	275	203	74%
その他 (ふれあい館含む)	253	1,038	941	1,138	1,488	131%
使用料(千円)	1,029	1,016	920	1,232	3,988	324%

※使用料にはその他収入が含まれます。

ウ 過去5年間の来館者、使用料(入館料)の推移



7 報告事項
(2)令和7年度事業取組状況について

資料-2

令和7年度 東御市総合交流促進施設事業計画

《 事業 予 定 表 》

月	常設展	大展示室		ふれあい館	ホール		
4月	梅野コレクション展Ⅰ (今西中通・満谷国四郎他)	4月12日～6月8日 館所蔵品精選展 令和6年度新規収蔵作品 を含めて		4月12日～6月8日 対話が生まれる展覧会vol.1 色・いろ・形、わたしのカタチ展 ～後藤美月といっしょ!～	4/19 みて!はなして! 親子でおしゃべり鑑賞会 4/27 ワークショップ 「つくろう!きもちちゃん、かた ちちゃん」		
5月					5/3 みて!はなして! 親子でおしゃべり鑑賞会 5/13 ナイトミュージアムコンサート 音喜楽ボーイズ (ヴァイオリン、チェロ) 5/25 おはなし会 ー絵本が育む親子の対話ー 5/25 展示室で!こどものおしゃべり 鑑賞会		
6月							
7月	梅野コレクション展Ⅱ (岡吉枝・野口謙蔵他)	6月21日～8月24日 第23回私の愛する一点展		市民ギャラリー	7/11 ナイトミュージアムコンサート クラリネット&ピアノデュオコン サート		
8月					8/9 ナイトミュージアム ワークショップ ミツロウを使ったワックスパー作 り		
9月	梅野コレクション展Ⅲ (山本鼎・川口軌外他)	9月6日～11月3日 “STRIPE”-水平線 戦後80年 山田正亮と焼け跡の前衛		9月6日～10月13日 東信濃工芸作家展vol.9 友禅染作家池田公正と上田工芸会の仕事	9/6 オープニング講演会 「山田正亮 ストライプの触覚 ー焼け跡の地平線と染織の記憶」 9/13 そば猪口絵付け体験 9/18 学芸員による作品解説 9/23 作家ギャラリートーク 「池田公正さんの仕事と上田の 工芸について」 9/28 ワークショップ 「グラスサンドアートで色の層 をつくろう!」		
10月						10/5 記念講演会 「20年後の山田正亮展 その人と作 品について」 10/7 ナイトミュージアムコンサート 満月の夜に、もの想う フルート、ヴィオラ、チェロによ る 10/11 火のアートフェスティバル 10/12 工芸作家展ブース出店 10/26 学芸員による作品解説	
11月				11月15日～1月12日 刀剣 Touken ー刀が映す東御の歴史ー		市民ギャラリー	11/3 学芸員による作品解説 11/15 オープニング特別講座「正倉院に 学ぶTouken」 11/23 「銘切体験～刀匠と一緒にものづ くり～」 11/29 地域おこし協力隊によるギャラ リートーク
12月							12/6 特別文化対談 「福島善三×宮入法廣」 12/20 地域おこし協力隊によるギャラ リートーク
1月	梅野コレクション展Ⅳ (青木繁・菅野圭介他)	1月24日～3月22日 木雨賞受賞記念 生誕110年 島村洋二郎 ー無限の悲哀と無限の美		市民ギャラリー	1/10 地域おこし協力隊によるギャラ リートーク 1/24 木雨賞受賞者記念講演「40年の旅 島村洋二郎の作品をさがして」 館長講演「戦後・人物表現の時代 の鬼才ー島村洋二郎のまなざし… 視線、夢想、凝視」 1/31 学芸員によるギャラリートーク		
2月					2/22 学芸員によるギャラリートーク		
3月					3/3 ナイトミュージアムコンサート 山本直哉×町田莉佳 3/15 学芸員によるギャラリートーク 3/22 記念講演「島村洋二郎 遺された 資料から見えてきた横顔」 島村洋二郎生誕110年祝い太鼓 コンサート		

「展示事業」

ア 常設展・コレクション展

期間	展覧会名	概要	来館者 (人)
4月～6月	梅野コレクション展Ⅰ	今西中通・満谷国四郎 他	
6月～8月	梅野コレクション展Ⅱ	岡吉枝・野口謙蔵 他	
9月～11月	梅野コレクション展Ⅲ	山本鼎・川口軌外 他	
11月～1月	梅野コレクション展Ⅳ	青木繁・菅野圭介 他	
1月～3月	梅野コレクション展Ⅴ	青木繁・菅野圭介 他	

イ 展示室

期間	展覧会名	概要	来館者 (人)	開催日数 (日)	一日平均 (人)
4月12日 ～ 6月8日	館所蔵品精選展 令和6年度新規収蔵 作品を含めて	絵画館のコレクションから精選した作品を展示する 展覧会。今年度は令和6年度新規収蔵の白鳥映雪、山 本弘、吉岡憲の作品を中心に展示。また、「信州ゆ かりの画家」、「絵画から聴こえる水の音」、とい う2つのテーマを設定し展示を構成。	783	48	16
6月21日 ～ 8月24日	第23回 私の愛する 一点展	絵を愛する人たちが、めぐりあいの喜びや美術作品 に寄せる思いを伝えるために所有する作品を持ち 寄って展示する展覧会。有名であったり、金銭的価 値の高い作家でなくとも、作品の質の高さやコレク ターの熱い想い―“愛”を伝える。	741	56	13
9月6日 ～ 11月3日	“STRIPE”―水平 線 戦後80年 山田 正亮と焼け跡の前 衛	1960年代、戦禍を経て絵画表現を発展させてきた前 衛画家の一人、山田正亮を取り上げ、館所蔵の前衛 画家と併せて戦後抽象画の系譜に迫ることを試み る。現代では戦後抽象の到達点の一つと評される山 田正亮の、未公開作品を中心とした信州では初とな る展覧会。	1554	50	31
11月15日 ～ 1月12日	刀剣 Touken―刀が 映す東御の歴史―	令和6年度開催の「東御の刀鍛冶―源清麿、山浦真 雄、山浦兼虎、そして宮入法廣へ」展にて紹介した 東御市ゆかりの“刀工”から東御市ゆかりの“刀 剣”へ視点を広げ、東御市の刀剣文化を紹介。			
1月24日 ～ 3月22日	木雨賞受賞記念 生誕110年 島村 洋二郎―無限の悲 哀と無限の美	東京と長野県飯田市を中心に作家活動を行いなが らも、37歳で天逝した早世の画家、島村洋二郎を取り 上げた展覧会。洋二郎の顕彰活動を行う姪の島村直 子氏の「第10回木雨賞」受賞を記念し、画家の生誕 110年の節目に、波乱の生涯を象徴するかのような凄 惨な力強さに満ちた島村洋二郎の芸術を紹介。			
			3,078	154	20

※10月末日時点

ウ ふれあい館

期間	展覧会名	概要	来館者 (人)	開催日数 (日)	一日平均 (人)
4月12日 ～ 6月8日	対話が生まれる展 覧会vol.1 色・い ろ・形、わたしの カタチ展～後藤美 月といっしょ！～	「これは何かな?」「どんな形かな?」…親子でお 話ししながら楽しめる展覧会。多様な形と色が合わ さる、イラストレーター・後藤美月の作品と出会い ながら、おしゃべりを通じてお互いのパーソナリ ティ＝「わたしのカタチ」の再発見を目指す。	783	48	16
9月6日 ～ 10月13日	東信濃工芸作家展 vol.9 友禅染作家 池田公正と上田工 芸会の仕事	市内在住の陶芸作家角りわ子氏を中心に、地元を拠 点に活動する作家の存在や作品を知ってもらおうと 始まった展示会。10年目となる今回は、上田市を拠 点に活動する「上田工芸会」所属の工芸作家11人の 作品展を開催。上田工芸会の活動や歩み、地域とと もに育まれてきた工芸文化の魅力を紹介する。	1,142	32	36
			1,925	80	24

7 報告事項

(2) 令和7年度事業取組状況について

資料-2

「その他関連事業等」

ア 展示関連事業

企画展名	実施日	事業名	内容	参加者 (人)
対話が生まれる展覧会vol.1 色・いろ・形、わたしのカタチ展 ～後藤美月といっしょ！～	4月19日 5月3日	みて！はなして！ 親子でおしゃべり鑑賞 会	展覧会担当学芸員がファシリテーターとなり、中学生以下の子供とその保護者が対象として「何が見える？」「どうおもった？」をコンセプトに、自由に会話しながら作品を鑑賞。	2
対話が生まれる展覧会vol.1 色・いろ・形、わたしのカタチ展 ～後藤美月といっしょ！～	4月27日	ワークショップ 「つくろう！きもち ちゃん、かたちちゃん」	「あなたの“きもち”はどんな形？」をコンセプトに、いろいろな紙を切ったり貼ったりしてコラージュするワークショップ。作家・後藤美月氏を講師とし、親子でオリジナルの作品を作成。	22
対話が生まれる展覧会vol.1 色・いろ・形、わたしのカタチ展 ～後藤美月といっしょ！～	5月25日	おはなし会 —絵本が育む親子の対 話—	「そもそも“対話”って？」「親子の対話時間を増やすには？」3名のゲストを迎え、様々な視点から“親子の対話”にスポットをあてた講演会。 ゲスト：作家・後藤美月氏、株式会社エンブックス代表/編集長・西川俊充氏、前東御市立和小学校長・宮下聡氏	21
対話が生まれる展覧会vol.1 色・いろ・形、わたしのカタチ展 ～後藤美月といっしょ！～	5月25日	展示室で！こどものお しゃべり鑑賞会	同日のイベント開催中、展示室でこどもだけの鑑賞会を開催。気になる作品を自由におしゃべりしながら鑑賞。	3
“STRIPE”-水平線 戦後80年 山田正亮と焼け跡の前衛	9月6日	オープニング講演会 「山田正亮 ストライプ の触覚-焼け跡の地平 線と染織の記憶」	当館館長・岡部昌幸による、日本近現代美術史の視点を交えた、戦後の前衛表現と山田正亮の作品についての講演。	9
東信濃工芸作家展vol.9 友禅染作家池田公正と上田工芸会の仕事	9月13日	そば猪口絵付け体験	素焼きのそば猪口（おまけに小皿）に呉須という絵の具で自由に柄を入れる絵付け体験。	16
“STRIPE”-水平線 戦後80年 山田正亮と焼け跡の前衛	9月18日 10月26日 11月3日	学芸員による作品解説	展覧会担当学芸員が、展覧会や作品の見どころを解説。	8
東信濃工芸作家展vol.9 友禅染作家池田公正と上田工芸会の仕事	9月23日	作家ギャラリートーク 「池田公正さんの仕事 と上田の工芸につい て」	展覧会に出品している上田工芸会の面々とコーディネーターの作家・角りわ子氏が集い、故・池田公正氏の思い出と上田工芸会の歴史を語る。	21
“STRIPE”-水平線 戦後80年 山田正亮と焼け跡の前衛	9月28日	ワークショップ「グラ スサンドアートで色の 層をつくろう！」	山田作品に見られる豊かな色彩表現をヒントに、色とりどりの砂を使って、オリジナルの「ストライプ」アートを制作。講師：吉田禎（日本サンドペインティング協会公認インストラクター）	22
“STRIPE”-水平線 戦後80年 山田正亮と焼け跡の前衛	10月5日	記念講演会 「20年後の山田正亮展 その人と作品につい て」	2005年に府中市美術館で開催された「山田正亮の絵画〈静物〉から〈Work〉…そして〈Color〉へ」を担当した学芸員の神山亮子氏による、画家・山田正亮の人物や作品についての講演。	10
刀剣 Touken —刀が映す東御の歴史—	11月15日	オープニング特別講座 「正倉院に学ぶ Touken」	宮内庁正倉院事務所前所長 西川明彦氏と宮入法廣刀匠が登場。法廣氏が制作依頼を受けた正倉院の再現模造刀子について講演。	
刀剣 Touken —刀が映す東御の歴史—	11月23日	「銘切体験～刀匠と一 緒にものづくり～」	法廣氏と門弟の森國清廣氏の指導の下、参加者が好きな文字を切る銘切体験。	
刀剣 Touken —刀が映す東御の歴史—	11月23日	法廣刀匠による銘切 コーナー	「銘切体験～刀匠と一緒にものづくり～」開催中、法廣氏による銘切コーナーを設置。法廣氏が参加者の好きな文字を文鎮に切る。	
刀剣 Touken —刀が映す東御の歴史—	11月29日 12月20日 1月10日	地域おこし協力隊によ るギャラリートーク	展覧会担当学芸員が、初心者向けに刀の鑑賞方法や展示作品の解説を行う。	
刀剣 Touken —刀が映す東御の歴史—	12月6日	特別文化対談 「福島善三×宮入法 廣」	異なる分野を極める二人の対談。それぞれの視点から、創作の共通点や伝統工芸の未来を語る。	
木雨賞受賞記念 生誕110年 島村洋二郎 —無限の悲哀と無限の美	1月24日	木雨賞受賞者記念講演 「40年の旅島村洋二郎 の作品をさがして」	島村洋二郎の没後、長年にわたり画家の顕彰に尽力されてきた姪・島村直子氏が、島村洋二郎の歩みやこれまでの顕彰活動について講演。	

7 報告事項
(2)令和7年度事業取組状況について

資料-2

企画展名	実施日	事業名	内容	参加者 (人)
木雨賞受賞記念 生誕110年 島村洋二郎 —無限の悲哀と無限の美—	1月24日	館長講演「戦後・人物表現の 時代の鬼才—島村洋二郎のま なざし…視線、夢想、凝視」	東御市梅野記念絵画館館長が、展覧会の経緯や木雨賞の取 り組みについて、日本近代美術史の視点を交えながら講 演。	
木雨賞受賞記念 生誕110年 島村洋二郎 —無限の悲哀と無限の美—	1月31日 2月22日 3月15日	学芸員によるギャラリートー ク	展覧会担当学芸員が、展示作品の見どころを解説。	
木雨賞受賞記念 生誕110年 島村洋二郎 —無限の悲哀と無限の美—	3月22日	記念講演「島村洋二郎 遺さ れた資料から見えてきた横 顔」	島村洋二郎の資料整理に深く携わり、書籍『カドミュー ム・イエローとブルッシャ・プリュー島村洋二郎のこ と』にて総論の執筆を担当した小寺瑛広氏による島村洋二 郎の画業や資料についての講演。	
木雨賞受賞記念 生誕110年 島村洋二郎 —無限の悲哀と無限の美—	3月22日	島村洋二郎生誕110年祝い太 鼓コンサート	学校公演や福祉施設、ギャラリーなどを中心に親子で活動 する和太鼓奏者による、島村洋二郎の生誕110年を記念す る演奏会。	

イ ホール活用事業

実施日	事業名	内容	参加者 (人)
5月13日	ナイトミュージアムコンサート	近藤聡氏と嘉納雅彦氏のユニット、「音喜楽ボーイズ」に よるヴァイオリンとチェロのコンサート。	50
7月11日	ナイトミュージアムコンサート	安藤里真氏と依田瑞穂氏によるクラリネットとピアノの デュオコンサート。	45
8月9日	ナイトミュージアムワークショップ	ミツロウを使ったワックスバーを作成。講師：Beehive	11
10月7日	ナイトミュージアムコンサート	山口直美氏、笹山秋津氏、俣平鞠季氏によるフルート、 ヴィオラ、チェロのコンサート。	64
3月3日	ナイトミュージアムコンサート	山本直哉氏と町田莉佳氏によるサクソフォンとピアノのコン サート。	

ウ 図録等

図書名	内容	発行部数
“STRIPE” -水平線 戦後80年 山田正亮と焼け跡の前衛	山田展 図録	500
刀剣 Touken —刀が映す東御の歴史—	刀剣展 図録	1,000

(3)梅野記念絵画館運営課題について

「梅野記念絵画館」地域の連携・経営管理の検討

ア 設置、運営の状況

1) 総合交流促進施設（梅野記念絵画館）

①設置状況（設置条例より）

- 設置 ・目的 市民の交流、文化活動の高揚、コミュニティの多目的活動に寄与する
・施設 梅野記念絵画館、ふれあい館
- 事業 ・美術品等の収集、展示
・美術に関する調査研究及び、講演会、講習会の開催
- 開館 9時30分～17時
- 休日 月曜日、国民の祝日の翌日、12月28日～翌年1月4日

イ 絵画館等と地域の連携

1) 地域社会との連携

- 【課題】 地域社会とどのようなかわりをもって、どのように共生していくかが課題である。
- 【検討方針】 ふれあい館活用検討会を開催し、ふれあい館を活用した地域との連携策を模索する。
- 【検討経過】 平成30年度～平成31年度にかけ3回の検討会を開催し、3つの方針（案）を策定。
- 【取組方針】 本来の「地域の交流の場」という施設の活用目的を元に ①地域コーディネート ②若年層への訴求 ③普及事業の3つの方針のもと活用する。

2) 周辺施設との連携

- 【課題】 本施設は、芸術むら公園の中にあり、様々な年代の利用がある。実施されるイベントや周辺施設や企業とタイアップすることで、訪れる目的が増え、来館者も増えることが見込むことができ、具体的な連携策が必要である。
- 【検討方針】 地域づくり支援室を中心に芸術むら公園にぎや会議に参加し、エリアマネジメント視点で、芸術むら公園関連施設との具体的な連携策を模索する。
- 【検討経過】 令和2年9月の第一回会議に参加し、地域の方々等ステークホルダーと課題の洗い出しと共有を行った。コロナ渦で以降会議は開催されていない中、本年度庁内の関係課による会議が開催された。
- 【経過】 わざわが展開する公園内カフェの問 tou といとう写真館出張撮影会 2022 を共催し、会場の一部提供等で協力を行った。（令和4年度）

3) 丸山晚霞記念館との連携

- 【課題】 東御市には美術館が二つあるが、梅野記念絵画館はここだけで完結している。丸山晚霞記念館には、子どもたちとのワークショップや学校との関わりなどの個性があるため、連携を行うなど東御市に美術館が二つあるメリットを活かす必要がある。（令和4年度運営委員会前澤委員より）
- 【検討方針】 丸山晚霞記念館で実施してきた教育普及事業が、今後は美術館単独の事業ではなく、文化スポーツ振興課の事業として転化していくため、両館が事業に関わる体制

(3)梅野記念絵画館運営課題について

を検討する。

- 【 経 過 】 文化スポーツ振興課の教育普及事業として、梅野記念絵画館及び丸山晚霞記念館の収蔵作品を用いた鑑賞ワークショップ等を実施。また、これまで丸山晚霞記念館が行なってきた学校ワークショップへの学芸員の参加など、学芸員同士の連携に向け活動を行っている。

ウ 絵画館等のマネジメント

1) 学芸員の能力向上

- 【 課 題 】 各地の美術館ではマネジメントや効率化が求められている中で、本市の絵画館等においても、研修等により学芸員の能力を高め、豊かな個性と付加価値をつけていくことが必要である。展示のスキルを上げるべきである。(令和3年度運営委員会三澤委員より)

学芸員の能力向上に寄与する研修の活用とともにシンビズムへの参加を提言したい。(令和7年度運営委員会伊藤委員より)

- 【 検 討 方 針 】 学芸員の雇用、育成方針について検討する。

- 【 取 組 方 針 】 学芸員のシンビズムへの派遣により、学芸員の能力を高める。

- 【 経 過 】 館長のシンビズムへの参加。学芸員のシンビズムへの参加。(令和5年度時点)
令和7年度より、梅野記念絵画館を日本博物館協会、全国美術館会議に入会。令和8年度以降の総会や研修などへの参加を検討。

令和7年度、学芸員がシンビズム6へエッセイを寄稿するなど、積極的に事業に参加。

2) マーケティングの重要性

- 【 課 題 】 厳しい財政運営が続き、公共施設の再編や統合も考えられる中、いかにすると美術館のサービスを多くの方々に利用してもらうことができるかをマーケティング手法により計画性し実行することが必要である。

- 【 検 討 方 針 】 アンケート、SNSの活用、ターゲットを絞る等マーケティング計画について検討する。

- 【 取 組 内 容 】 令和6年度特別展において、展覧会公式Xを開設し、情報発信を行った。展覧会お知らせのポストは閲覧回数60万件、リポスト(情報拡散)約6000件を記録し、絵画館の周知につながった。

令和7年度、館内にアンケート用紙を常設。

3) マーケティングの重要性 - 2

- 【 課 題 】 梅野記念絵画館としてInstagramを開設すべき。今の時代、ホームページよりもInstagramで情報を得ている人が多い。美術館の企画をInstagramで発信し、人々へ広報できればと思う。(令和4年度運営委員会角委員より)

- 【 検 討 方 針 】 美術館でのSNS発信の制度について検討する。

- 【 取 組 内 容 】 令和4年度11月に梅野記念絵画館のInstagramを開設。展覧会のお知らせや展示室の様子、イベント情報などについての発信を行なっている。

4) 開館日、時間、使用料などの柔軟性

- 【 課 題 】 来館者の増加を図るため、開館時間を、季節や展覧会に応じて変更することや、開館日、企画展に合わせた観覧料の調整等、一定のルールに柔軟性を持たせることが必要である。入館料の検討とともにその具体案として入館パスポートについて検

(3)梅野記念絵画館運営課題について

- 討してもらいたい。
- 【検討方針】 開館日、時間、使用料は条例定め事項のため、見直すべき条文を洗い出し、改正を検討する。
- 【取組内容】 令和2年度より満月の日に延長開館を行うナイトミュージアムを開催している。絵画館のロビーの窓から見える、月の光が映し出す浅間山の稜線や明神池に映る月の美しさをPRし、異なる切り口からの来館者増を目指したい。
令和5年度よりナイトミュージアム開催日にスペシャルコンサートを実施。異なる切り口として音楽ファンの来館者増を目指した。
- 【経過】 使用料については、令和3年度条例改正を行った。常設展示 300 円（200 円）、特別企画展はその都度定める規定を加えた。入館パスポートについては引き続き検討する。

5) 企画展の在り方

- 【課題】 梅野記念絵画館における企画展は物故作家を中心に、埋もれた作家を掘り起こし、顕彰することを趣旨としており、今後も館の個性を維持する重要なテーマである。一方地域の美術館として、地域に焦点を当てる企画を実施し、この双方を両輪に館運営をする必要がある。
地域に愛される美術館として、地元作家のリサーチを使命とし、未来の活躍が期待される地域の作家や作品を取り上げてもらいたい。(令和6年度運営委員会三澤委員より)
- 【検討方針】 数ヵ年計画の中で地域やコストパフォーマンスを意識した企画展の開催を検討していく必要がある。
- 【検討経過】 ふれあい館を活用し、地域との連携や関わりを模索する。また、ふれあい館を地元の人に活用していただくために貸館規定を条例に盛り込むことを検討する。
- 【取組内容】 令和2年度以降、GWに地域の子供たちに向けた絵本の原画展や私の愛する一点展と連動させ、生活の中に美を取り入れることを地域に提案する展示、地元作家の展示、東信濃工芸作家展を火のアートフェスティバルの時期に合わせ、工芸のお祭りとして地元と共に盛り上げていくことを狙いとする等、地元を意識した企画をふれあい館の企画として盛り込んでいる。
令和3年度、ふれあい館を地元の人に活用していただくために貸館規定を条例に追加。
令和5年度以降、火のアートフェスティバル開催時に、東信濃工芸作家展出展作家の作品を購入することのできるブースを出店し、芸術むら公園でのイベントとの連携を行なった。
令和6年度、地域の方々の来館の敷居を下げるため、小中学生をメインターゲットとした絵本原画展を実施。また、埋もれた現代作家の顕彰や、地域に縁のある刀工を取り上げた展覧会など、幅広い分野の展覧会を開催した。
令和7年度についても、上記コンセプトのもと、絵本展を開催予定。また、絵本原画展を活用した課外部活動や対話鑑賞事業を実施予定。
令和7年度、特別展「“STRIPE”ー水平線ー戦後80年 山田正亮と焼け跡の前衛」開催時、関連展示として同展ワークショップの講師を担当する地域作家の作品を期間限定で展示。

7) 収集・保存事業-1

- 【課題】 梅野記念絵画館を地域の方々に身近に感じていただくために、絵画館が持つ多くの情報を市民と共有すべきである。
- 【検討方針】 収蔵品情報や取得作品について積極的な情報提供の制度を検討。
展覧会企画へのスポンサー契約及び、メセナ等の複合型運営を検討。

(3)梅野記念絵画館運営課題について

- 【取組内容】 必要な情報を提供するためのプラットフォームの整備として、令和2年度にホームページを改修した。現在、館の主要作品である青木繁、菅野圭介、伊藤久三郎、莊司貴和子、今西中通の作品情報についてデジタルアーカイブ化事業を実施、HPで公開中。(令和2年度)。他の主要作家についてもデジタルアーカイブ化を検討中。また、以降も総務省が推進するデジタルアーカイブ化への着手を検討。
令和7年度、引き続きデジタルアーカイブに向けて準備を進めている。

8) 収集・保存事業-2

- 【課題】 建物が築20年以上経過し、空調設備の不具合が出てきた。収蔵庫には空調設備がなく、近年の異常気象が続く中、作品の収蔵環境に不安があり、早急な対策が必要である。
- 【検討方針】 合併特例補助金や公共施設適正管理事業債を活用した改修を実施を検討する。
- 【取組内容】 収蔵庫は合併特例補助を活用し、令和2年度に除加湿器の設置工事を行った。令和3年度には施設全体の空調改修を冬季休館中に実施。加えて、移動式の加湿器4台の導入を合わせて実施した。また、絵画館入口へのアプローチ道(木道)についても修繕を実施した。
令和6年度に大展示室、小展示室及びふれあい館の壁の改修を実施。
また、展示室すべてにピクチャーレールを設置。特にふれあい館において、市民が展示作業を行いやすいような整備を行った。
令和7年度、施設内の照明全てのLED化改修工事を実施。電圧や光量調節機能などが改善され、より作品の鑑賞、また保全に配慮した展示が可能となった。

9) 収集・保存事業-3

- 【課題】 近年作品の寄贈の申出が増え、収蔵庫の収蔵率が上昇。今後は収蔵方針を定め、今まで以上に厳選する必要がある。(令和3年度美術品資料選定委員会)
特に現存作家の作品の収集について、方針が決まっていない部分がある。(令和4年度)
- 【検討方針】 収蔵方針について検討する。
- 【取組内容】 令和6年度に「東御市梅野記念絵画館収蔵品収集方針」(資料-a)を策定。また、収蔵場所および活用方法を検討中。

10) 友の会との協力体制の見直し

- 【課題】 固定客の確保のために会員の増加を図らなければならないが、会員の固定化、高齢化により今後ますます減少していくことが見込まれる。また、友の会業務と美術館運営業務の混同が見られるため整理が必要。
- 【検討方針】 会員制度等諸制度の見直しについて、友の会と検討していく。
- 【検討経過】 絵画館館長と友の会幹事による打合せ、意見交換を行いながら見直しを行っている。令和2年度は友の会主催の「美術サロン」を私の愛する一点展の期間中に開催。友の会会員から登壇者を招き、絵を手にし、観る楽しさを館長とのクロストークを交えて紹介した。コロナ渦ということもあり、なかなか開催が難しくなっているのが現状。友の会の事務は美術館業務と分けて、友の会長野幹事を中心に推進する体制を取っていただいている。(令和3年度)
- 【取組内容】 令和7年度において、これまで友の会主催で行われていた「私の愛する一点展」を梅野記念絵画館と友の会の共同主催という形で開催。館の企画の一つとして学芸員が展覧会運営を主導した。
また、特別展開催にあたっては、作品の調査、借用などの企画進行において、友の会会員の方々にご協力いただいた。

(3)梅野記念絵画館運営課題について

1 1) 友の会との協力体制の見直し-2

- 【課題】 友の会主催の「私の愛する一点展」の図録作成にあたり、著作権の扱いに特に注意が必要。
図録を販売するのではなく、寄付という形にすることも考えられる。(令和6年度運営委員会梅野委員より)
- 【検討方針】 作品借用の際の著作権確認について、友の会と検討していく。
- 【取組内容】 図録に掲載する作品の著作権確認を出品要項に追加。未確認のものは展示のみとし、図録には未掲載とする。
また、発売中の図録(バックナンバー)の価格を一律500円に改定し販売。

1 2) ショップ、喫茶

- 【課題】 ショップや喫茶は、美術館を訪れる者の楽しみの場であるが、人と予算が限られる中で、十分なサービスの提供の可否が課題である。
- 【検討方針】 喫茶・物販に関し、外部委託の検討を行う。
- 【取組内容】 東御の刀鍛冶展にて、観光協会協力のもとiPadでのAirレジを導入。(令和6年度)

1 3) ボランティア

- 【課題】 人と予算が限られる中で、サービスの質を落とさず運営を行うためには、美術館に関わる人材を多く生み出すことが課題である。新たな取り組みを行う際に、今のスタッフの人数ではもたない。
- 【検討方針】 ボランティアの育成や活用について他の美術館の事例について研究し、人材確保の課題に向けて検討する。また友の会会員に対する事前内覧会やギャラリートークを開催し、館の企画展の趣旨や内容を理解・共有していただく機会を設け、展覧会の周知や盛り上げに関し共に活動をできる体制の構築を試みる。
- 【経過】 東御市として、市内の小中学校に教育普及のアウトリーチを展開する中で、ボランティアの登録を募り、対話鑑賞事業を行っているものの、4人いるメンバーは10年前から変わらず、今後のボランティアの拡充、募集への手がかりはつかめていない状況。

1 4) 博物館登録について

- 【課題】 博物館登録がなされていないことは、作品の貸借において絵画館に対する他館からの信頼性を欠くこととなり、企画推進の足かせとなる。また、今後登録要件の補助金等が出てくる可能性がある。(令和元年度は博物館登録をしている館に対し、文化庁による博物館クラスター形成支援事業が実施された)
- 【検討方針】 博物館登録を令和3年度に行う。
- 【経過】 設立の経過として農業施設という位置づけで補助金を活用し、建設された施設であるため、用途変更等の手続きがあり、長野県地域振興局、長野県生涯学習課等との協議を実施してきた。しかし、農業施設という位置づけで補助金を活用した経過から、建物が耐用年数50年を迎えるまでは、用途変更は難しい状況にある。

1 5) 美術館の新たな役割

- 【課題】 文化芸術が一体何ができるのかが問われている時代の中で、もう少し違った文化の役割としての地域の中で何ができるのかということを検討する必要がある。例えば東信の美術だけではない役割の芸術文化にかかわっていくものを所管する機関、そういうところと一緒に連携して何ができるかというのを問いかけていくと、

(3)梅野記念絵画館運営課題について

そうということが市民に対する、また広域に広がっていく、そういうきっかけになっていくのでは。(令和2年度運営委員会保科委員より)文化というものを美術だけで捉えずに、演劇とか音楽等食も文化ですから、その多様な文化をつなぎ合わせる必要がある。(令和2年度運営委員会三澤委員より)

【検討方針】 美術館と学校の連携や教育普及の重要性が浸透しつつある中で、現在は学校との一層の連携を模索中。また、ふれあい館における展覧会で地域性や身近なテーマ性を持たせた展覧会を開催し、他分野との連携を実施。

【経過】 11月に学校と美術館をつなぐ教員向け研修会を文化・スポーツ振興課で開催した。またふれあい館で開催した「はらぺこめがねアートワーク展」では、食をテーマに創作活動を行う彼らのアートワークのうち、東御市の食文化に関わる作品という枠でテーマ展示した。その中で市内の畜産業者と食育に関する事業を実施した。

(令和3年度)

令和6年度、学芸員が部活動指導員として北御牧中学校の美術部の指導を行った。部活動の地域移行の流れの中、学芸員の立場から芸術文化と学校をつなぐ美術館の活用方法を模索中である。

16) 美術館の新たな役割 - 2

【課題】 今美術をやる若者の数が激減しており、美術館の中に若い世代を入れていくことが喫緊の課題。長野県は自然が豊かであり、そういう自然観を活かしてクリエイティブな能力のある子を育てていく。そういう役割を美術館も考えるべき。(令和3年度運営委員会保科委員より)

風景、公園の景観などの資産を生かして、自然の中にある文化施設であることを強調した展覧会やイベントを作るべき。(令和4年度運営委員会保科委員より)

【検討方針】 自然観や地域の風土を活かした企画や教育普及事業について今後研究する。長野県の自然を描くために作家が多く入ってくる歴史があり、県の自然と美術制作をつなぐ機会の創出についても検討する。

【取組内容】 学芸員が、部活動指導員として課外活動の一環で、北御牧中学校美術部を対象とし、美術館見学を促進。

エ その他

1) Wi-Fi の充実

【課題】 令和2年度、国ではgigaスクール構想の中で、2,300億円を投じ、Wi-Fiの充実を図る事業を実施している。またコロナ渦で美術館の利用ニーズが変わっている中でインフラ整備が重要である。(令和2年度運営委員会三澤委員より)

より世界と繋がっていくこれからの時代において、Wi-Fiが美術館にあることはかなり重要。作品が少ない美術館も、そこにWi-Fiがあればバーチャルな作品を呼んでくることができるため、Wi-Fiの充実を早急に実施すべき。(令和4年度運営委員会三澤委員より)

【検討方針】 性能的な点含め、所管課に確認する。

【検討経過】 美術館では、館内独自のWi-fi整備は完了している。市内においてはSSID認証が必要な1日3回、1回30分のフリーアクセスポイントが東御市役所、湯ノ丸高原、海野宿、田中駅、道の駅「雷電くるみの里」、芸術むら公園に設置。また学校については、全小学校の普通教室、特別教室にアクセスポイントが整備されている。

(3)梅野記念絵画館運営課題について

東御市梅野記念絵画館収蔵品収集方針

1 基本的な考え方

当館の収蔵品は、開館時に寄贈を受けた梅野隆のコレクション（以下、梅野コレクションという。）がベースになっている。梅野隆は、生涯を通じて「特異な業績を上げながら忘却されている作家や、不遇な生涯を終えた作家を再評価し、世に知らしめること」を信条にしていた。当館は、初代館長を務めた梅野隆の理念を継承し、運営している。

また、地域の公立美術館として、この地方にゆかりのある作家で、その存在を後世に伝えていく必要のある作家の作品を収蔵する。

2 収集対象

- (1) 原則として、収集対象を日本及び世界の近現代美術作品とする。
- (2) 梅野コレクションの作家の作品で、当該作家の芸術性を理解するうえで重要な作品、またはその全作品を通覧するうえで既存コレクションが欠落している時期の作品。
- (3) 上記理念に基づき開催した展覧会で対象とした作家で、その作家の芸術を語るうえで必要と思われる作品。
- (4) これまで展覧会は開催していないが、梅野隆の理念に沿う作家で、展覧会を開催する可能性のある作家、または残存する作品が少なく展覧会を開催できないが、貴重であり散逸の危険性を回避するために収集の必要性のある作家の作品。
- (5) 東御市が所在する長野県東信地方の美術史を語るうえで必要な作家で、美術館が収蔵するに相応しいレベルの作品。
- (6) 上記のいずれにも該当しないが、日本近代美術史に既にその存在が位置づけられている作家で、収蔵が相応しいと考える作品。

3 審査

上記の収集対象となった作品は、東御市総合交流促進施設（梅野記念絵画館・ふれあい館）運営委員会で審議され、了承されたうえで、東御市美術品取得審査委員会を経て収蔵が決定される。

8 審議事項

資料-4

(1) 令和7年度取得作品(案)について

No.	題名 / 作家	年代	技法	サイズ		画像	寄贈者	備考
1	五百住乙人	不明	油彩	30号	F		五百住容代	五百住乙人 作品 2点所蔵あり 第75回立 軌会展出品
	母と子		キャンバス	91.0×72.7				
2	五百住乙人	1976	油彩	50号	M		五百住容代	1984年 五百住乙人油 絵展(日本橋 三越)出品作 2008年 五百住乙人展 出品作(梅野 記念絵画館)
	馬と少年		キャンバス	116.7×72.7				
3	五百住乙人	1976	油彩	80号	M		五百住容代	2008年 五百住乙人 展出品作 (梅野記念 絵画館)
	はばたく		キャンバス	145.5×89.4				
4	五百住乙人	1988	油彩	30号	F		五百住容代	1989年 五百住乙人油 絵展(日本橋 三越)出品作 2008年 五百住乙人展 出品作(梅野 記念絵画館)
	卓上の果実		キャンバス	91.0×72.7				

(1)令和7年度取得作品(案)について

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質		サイズ
1	五百住乙人	母と子	不明	油彩	キャンバス	91.0×72.7

寄贈



【佐野悠斗 梅野記念絵画館(学芸員) 説明】

1925年(大正14年)に東京小石川で生まれた五百住乙人は、1956年の第8回立軌展(日本橋三越本店)をはじめ、立軌会の同人として長年にわたり活躍した独力の画家である。服部亮英、脇田和に絵を学び、画廊での個展や公募展への出品を通して作品発表を続けた。1998年には第13回小山敬三美術賞を受賞。また、翌年には美術文部省検定済教科書へ作品が掲載された。2023年没。享年97。

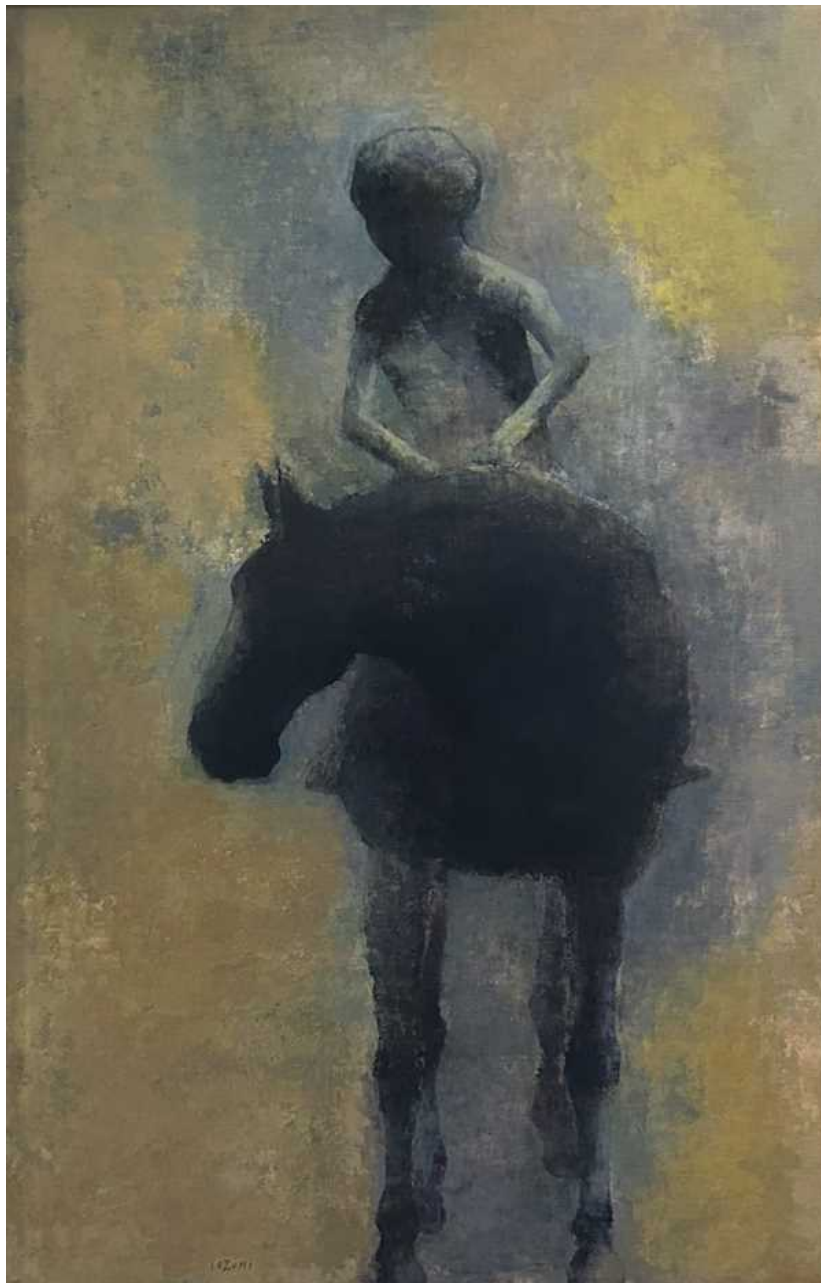
梅野記念絵画館では2008年に、公立美術館では初となる個展「ザ・イオズミ・ワールド 時を超えた静寂 五百住乙人展」を開催。この展覧会の記録から、作品を当館に寄贈されたい旨遺族から申し出があった。日本の戦後洋画史において、立軌会を代表する画家であり、当館の所蔵とするに問題ない質を備えている。

なお画家自身の子どもを描いたという本作は、第75回立軌展(2022年)に出品されている。

(1)令和7年度取得作品(案)について

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質		サイズ
2	五百住乙人	馬と少年	1976年	油彩	キャンバス	116.7×72.7

寄贈

**【佐野悠斗 梅野記念絵画館(学芸員) 説明】**

本作は黒馬に乗った朴訥とした少年が描かれている。馬は、果実や鳩とならび五百住の作品にしばしば登場するモチーフであるが、とりわけ本作はその姿を正面から描いており、その心象的な画面構成と題材から、画家の豊かな描写感覚の認められる作品といえる。

また、府中市美術館にも同じ題材である《馬と少年》が収蔵されるなど、五百住乙人は近現代洋画史上の一つの到達点を示す画家として、高まりを見せている。梅野記念絵画館では、五百住作品2点(《帽子の婦人》、《待つ人》)を所蔵しており、所蔵作品と合わせ、活用の可能性を大いに持つ作品である。1984年「五百住乙人油絵展」(日本橋三越)、2008年「ザ・イオズミ・ワールド 時を超えた静寂 五百住乙人展」(東御市梅野記念絵画館)に出品。

(1)令和7年度取得作品(案)について

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質		サイズ
3	五百住乙人	はばたく	1976年	油彩	キャンバス	145.5×89.4

寄贈

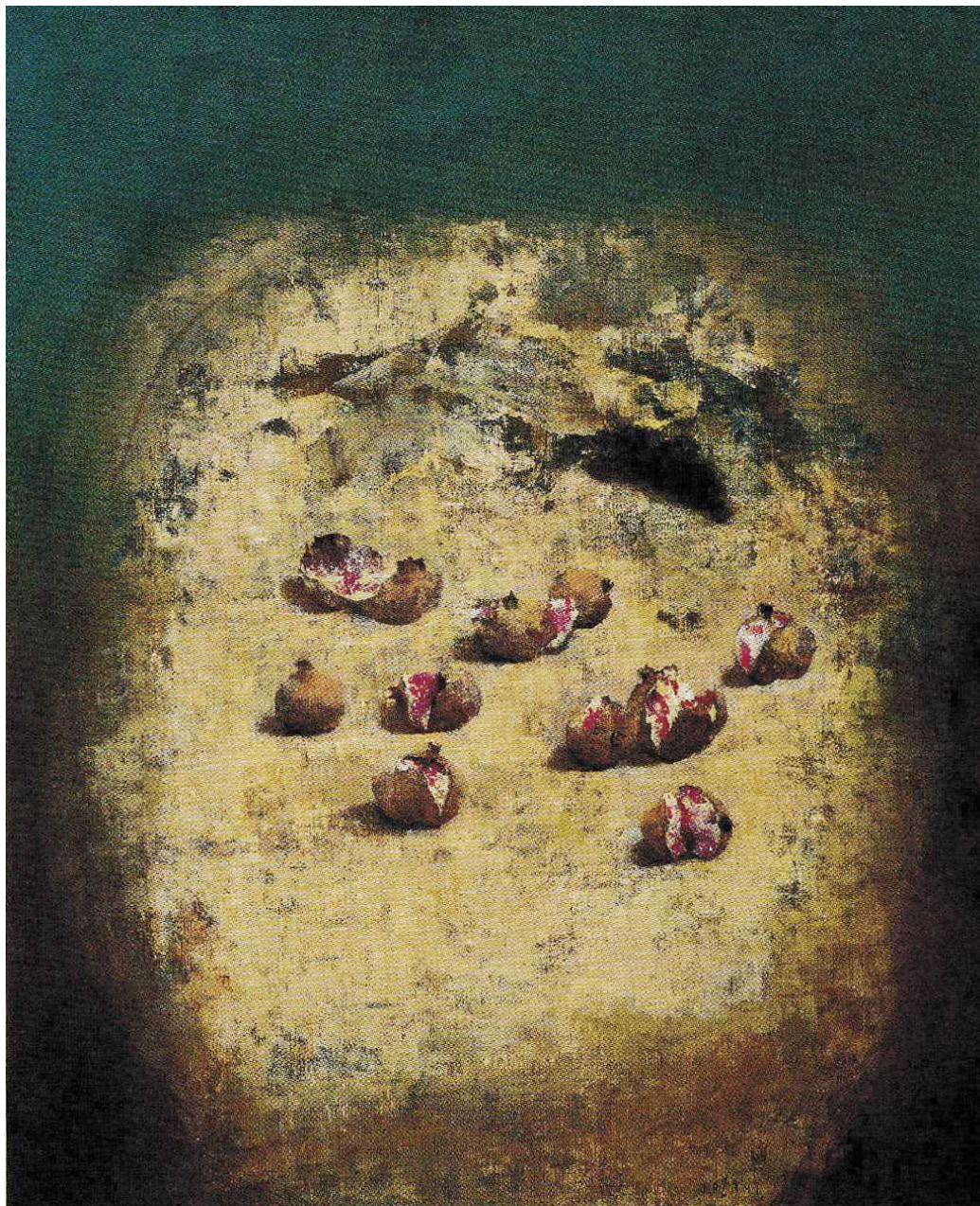
**【佐野悠斗 梅野記念絵画館(学芸員) 説明】**

本作および受贈候補作品《馬と少年》、《卓上の静物》は2008年の「ザ・イオズミ・ワールド 時を超えた静寂 五百住乙人展」(東御市梅野記念絵画館)にも出品歴があるが、梅野記念絵画館初代館長・梅野隆は展覧会の開催にあたって、「そこに漂う静謐感、虚勢のない真面目で正直な画風は、(中略)誰もが安らぎに似た感動を受けるであります。」と五百住乙人の表現力の高さを認めている。このことから、五百住作品の受贈は梅野の志を継承する当館の理念実現に大きく寄与すると考えられる。特に本作は、羽ばたく5羽の鳩の背景に華やかな暖色が用いられており、五百住作品の中でも比較的情動性のある作品であるため、当館所蔵の五百住の人物画と合わせ幅のある活用方法が見いだせる。

(1) 令和7年度取得作品(案)について

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質		サイズ
4	五百住乙人	卓上の果実	1988	油彩	キャンバス	91.0×72.7

寄贈



【佐野悠斗 梅野記念絵画館(学芸員) 説明】

五百住乙人は自身の身近にあったザクロを作品に繰り返し描いているが、本作はその中でも見下ろすような縦の構図をとり、絵画の中の三次元的な奥行きをうかがわせる。詩人の松永伍一が詩集「五百住乙人の詩趣」にて「卓上の果実」について、「柘榴が笑い出す様に割れました。秘密を隠しておきたかったのに、紅く熟れた粒たちがもう我慢できずに歌いだすので、ついつい外皮を脱いだのです。(抜粋)」と表現したように、熟れ落ちて割れた果実が象徴的に描かれた静物作品である。

1989年「五百住乙人油絵展」(日本橋三越)、2008年「ザ・イオズミ・ワールド 時を超えた静寂 五百住乙人展」(東御市梅野記念絵画館)に出品。

令和8年度 東御市総合交流促進施設事業計画

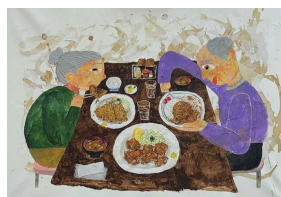
《事業予定表》

月	常設展	大展示室	ふれあい館	ホール
4月	～4月24日（金） 照明工事期間延長を考慮し休館			
5月	梅野コレクション展Ⅰ	絵本展 4月25日（土）～6月28日（日）	館所蔵品精選展 令和7年度新規収蔵作品を含めて 4月25日（土）～6月28日（日）	
6月				
6月29日（月）～7月10日（金） 展示替えのため休館				
7月	梅野コレクション展Ⅱ	第24回私の愛する一点展 7月11日（土）～8月23日（日）	市民ギャラリー	
8月				
8月24日（月）～9月11日（金） 展示替えのため休館				
9月	梅野コレクション展Ⅲ	特別展 梅野隆生誕100年 記念企画展 梅野隆の眼（仮） 9月12日（土）～11月23日（月・祝）		
10月				
11月				
11月24日（火）～12月4日（金） 展示替えのため休館				
12月	梅野コレクション展Ⅳ	企画展準備	12月5日（土）～12月27日（日） 市民ギャラリー	
12月28日（月）～1月4日（月）～1月8日（金） 年末年始・展示替えのため休館				
1月	梅野コレクション展Ⅳ	山本鼎が興した農民美術 東御の農美（仮） 1月9日（土）～3月22日（月・祝）	市民ギャラリー	
2月				
3月				
3月23日（火）～次年度4月上旬 次年度企画展準備のため休館				

(2)令和8年度事業計画(案)について

ア 大展示室

企画展 「対話がうまれる展覧会 vol.2 おしゃべり美術館(仮)」



絵本 「だれのしまうま」 後藤美月

絵本 「しよくどう」 はらぺこめがね

絵本 「あるあるいるいるようかいえほん」 いちよんご

絵本 「オムライス」 DJ みそしるとMC ごはん

1) 会 期 令和7年4月25日(土)～令和7年6月28日(日)

2) 入 館 料 500 円

3) 主 催 東御市

4) 後 援 信濃毎日新聞、テレビ信州、大田区教育委員会、各出版社(予定)

5) 概 要 令和8年度に東御市と東京都大田区は、友好都市協定締結30周年を迎えます。これを記念し、両市の市民交流をより深めるとともに、次世代の子どもたちに文化芸術を通じて豊かな経験を提供するため、「対話」をテーマにした美術展を開催します。
東御市では令和5年度より市内の全小中学校で、コミュニケーション活動として対話鑑賞を活用した「朝鑑賞」に取り組んでいます。その中で、令和6年度には、当市の梅野記念絵画館で「対話」をテーマに、「対話がうまれる展覧会 vol.1」展を開催しました。
その第二回となる本展では、子育てをしながら日常生活を題材に作品を制作する絵本作家作品を複数取り上げます。鑑賞者同士で共に楽しみ、語り合い、参加できる空間を創出することで、友好都市交流の理念を未来へとつなげていきます。

6) 関 連 事 業 ①オープニングセレモニー(いちよんごのワークショップを同日に開催)

②春の美術館わくわく遠足(仮)(資料Ⅱ参照)

特別ゲスト：ケロポンズ、DJ みそしるとMC ごはんの公演と、上記作家のワークショップ、対話鑑賞、クロストーク等を同日開催するイベント(全一回開催)

③はらぺこめがね公開制作(数日間にわたって滞在し制作)

④対話鑑賞イベント(会期中複数回開催)

企画展 「第24回 私の愛する一点展」

1) 会 期 令和8年7月11日(土)～令和8年8月23日(日)

2) 入 館 料 300 円

3) 主 催 東御市梅野記念絵画館、梅野記念絵画館友の会

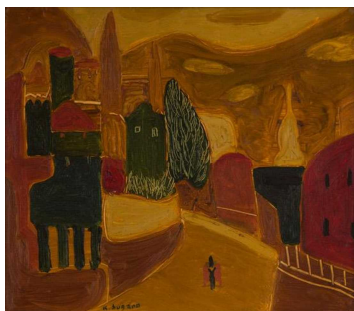
5) 概 要 絵を愛する人たちが、めぐりあいの喜びや美術作品に寄せる思いを伝えるために所有する作品を持ち寄って展示する展覧会。有名であったり、金銭的価値の高い作家でなくとも、作品の質の高さやコレクターの熱い思い“愛”を伝える企画。

(2) 令和8年度事業計画(案)について

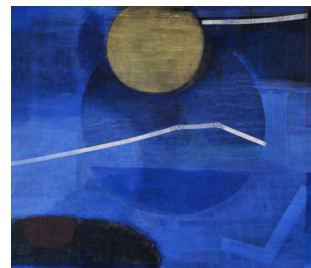
特別企画展 「梅野隆生誕 100 年記念 梅野隆の眼（仮）」



青木繁《眼》



菅野圭介《ワルソー風景》



莊司貴和子《玄海の月》

- 1) 会 期 令和8年9月12日（土）～令和8年11月23日（月・祝）
- 2) 入 館 料 800 円（予定）
- 3) 主 催 東御市梅野記念絵画館
- 4) 概 要 本展は、梅野記念絵画館初代館長・梅野隆（1926-2011）の生誕 100 年を記念し、その生涯と業績を総合的に振り返る回顧展です。幼少期より父・梅野満雄のもと、青木繁や坂本繁二郎による作品との出会いを通じて涵養された美意識を出発点に、隆は一貫して「美」の道を歩みました。その人生は、美に囲まれた生家での少年時代を原点とし、亡き父・満雄の想いを継ぐように自身の蒐集を始めたサラリーマン時代、埋もれた画家の美を自身の眼で発見する楽しみを見出し、美術研究家として蒐集に顕彰が加わる藝林時代、長野県北御牧村に居を移し、美術館という新たな場で自身の美の表現と市民への普及という活動に尽力していく梅野記念絵画館館長の時代に分けられます。そして、隆が志した理念は、彼が去った後も埋没することなく、後継となった佐藤修館長から続く現代の梅野記念絵画館にも受け継がれています。本展では、隆自身が集めた各時代の梅野コレクションを中心に展示し、その変遷を辿ると同時に未来へ継がれていく隆の眼を見つめなおします。

- 5) 関 連 事 業 9 月 12 日（土）オープニングレセプション

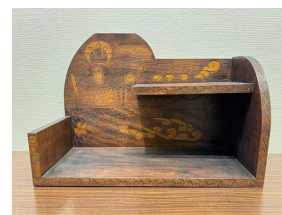
企画展 「山本鼎が興した農民美術 ー東御に遺された農美コレクションー（仮）」



山本鼎《早春》



農民美術工芸品（木片人形、小物入れ、器など）、山本鼎がロシアから持ち帰った工芸品



- 1) 会 期 令和9年1月9日（土）～令和9年3月22日（月・祝）
- 2) 入 館 料 500 円（予定）
- 3) 主 催 東御市梅野記念絵画館
- 4) 概 要 1919 年、長野県小県神川村（現在の市）を中心に広まった「農民美術運動」は、芸術家であり自由画教育の推進など教育者としても尽力した山本鼎（1882-1946）によって提唱されます。農民の生活向上と芸術普及を目的とした農民美術運動では、冬の農閑期を活用した副業として、多数の美術工芸品が制作、販売されました。神川村の小学校に開所した農民美

(2)令和8年度事業計画(案)について

術練習所から始まった運動は、全国での講習会を経て、各地に生産組合が誕生、信州地域だけにとどまらない拡大と発展を遂げます。そして、現代において、東御市には総数 200 点を超える農民美術作品の一大コレクションが遺されています。当コレクションは、かつて神川村大屋に存在した農民美術研究所内に保管されていたもので、1942 年、山本鼎が脳溢血で倒れた際、その療養費にあてるため売りに出されたものを当時の和農業会が購入、散逸を防ぐとともに地域の文化財として大切に保管してきたものです。本展では、上記コレクションを再整理し、農民美術運動の流れを追って展示するとともに、和村（現在の東御市）にかつて存在した農民美術生産組合にも着目、東御市として農民美術作品を後世に受け継ぐ意義を再確認します。

イ ふれあい館

企画展 「館所蔵品精選展 令和 7 年度新規収蔵作品を含めて」

- 1) 会 期 令和 8 年 4 月 25 日（土）～令和 8 年 6 月 28 日（日）
- 2) 入 館 料 500 円
- 3) 主 催 東御市梅野記念絵画館
- 4) 概 要 梅野記念絵画館は、初代館長・梅野隆が蒐集した梅野コレクションや郷土ゆかりの作家で構成された倉沢コレクションをはじめ多数の作品を所蔵し、その数は約 1,000 点を超えます。本展では、それらコレクションの中から精選した作品を中心に、前年度の新規収蔵作品を加えて紹介します。